

鉄コーティング湛水直播栽培暦 【2023年】

令和5年4月

作成:JA 庄内みどり 協力:酒田農業技術普及課

月旬別	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月	
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上		
生育 『はえぬき』	播種 → 出芽期 → 有効分けつ期 → 無効分けつ期 → 幼穂形成期 → 減数分裂期 → 出穂期 → 乳熟期 → 収穫期																		
	時期別生育指標		月日	6/10	6/20	6/30	7/10	7/20	基本生育指標		収量 kg/10a	整粒歩合 %	収量構成要素 粒数		玄米 千粒重 g	精玄米 粒数歩合 %	稈長 cm	穂数 本/m ²	最高 茎数 本/m ²
		草丈(cm)	20	27	37	49	66			580	80	1穂粒	m ² 当たり粒	22.3	79	77	585	725	81
		茎数(本/m ²)	245	450	635	725	685												
		葉色(SPAD)	36	39	40	40	39												
		葉数(枚)	5.4	7.3	8.8	9.9	11.0												

水管理

管理

均平な圃場作り
※注 苗立ち数確保のポイントを参照

播種は移植の直前、または同時期

倒伏に注意

収穫は7日程度の遅れ
※刈取晩限に注意して刈遅れにならないように注意する。

← 除草剤は直播登録のある剤を使用する →

播種時にオサキニ1キロ粒剤またはプレキープ1キロ粒剤(フロアブル)を施用する。
7日間湛水後に自然落水

1.0葉期に入水
ポテ-ガードプロ1キロ粒剤は1葉期、またはレプラス1キロ粒剤は2葉期に湛水散布する。

※雑草が残る場合はハサグラン粒剤(液剤)・ワイドハワ-粒剤・クインチャーパスME液剤などを落水又はごく浅く湛水して散布する。
※イボクサが残る場合はミニ液剤を散布する。
残草の種類や時期で適する除草剤が異なります。
最寄りの営農指導員までご相談下さい。

茎数の把握(本/m²)方法
①条播・点播は1m間の茎数×3.3
②散播は50cm角の茎数×4
茎数を正しく把握しましょう。

『はえぬき』 10a当たりの窒素量(目安)
基肥 5.0~6.0 kg 穂肥 1.5~2.0 kg

播種~苗立ち期にイネミスゾウムシ等が発生することがある。圃場観察を行い、早期発見・適期防除とする → トレホン粒剤で対応
いもち病の発生が懸念される場合は、コトツブ粒剤5等で対応

初期害虫以降の本田病害虫防除については移植栽培に準じて実施する。
葉色が濃いほ場では、イネツトムシやいもち病の発生に注意する。

鉄コーティング湛水直播のポイント

【鉄コーティング種子の準備】

種子準備
10a当たり
4~5kg 準備(乾籾)

→

3~4日
13~20℃浸種
発芽させない

→

鉄コーティング
乾籾の0.3倍量
~0.5倍量の鉄粉
※発熱するので、薄く広げて乾燥させる

→

発芽率測定後
保存

○コーティング資材の使用例 0.5倍重の場合
始めにA~Cと水を混ぜ、落ち着いたところでDを振り混ぜる。

- A 乾籾 : 10.0kg
- B 鉄粉 : 5.0kg
- C 焼石膏 : 0.5kg
- D 仕上げの焼石膏 : 0.25kg

※注 苗立ち数確保のポイント
~代かきから播種まで~

- ・代かきは移植栽培よりも固めにする。
- ・代かきから播種までは3日程度空けて圃場を落ち着かせる。
- ・播種時、田面の硬さの目安は、ゴルフボールを1mの高さから落として半分埋まる程度。

【注 意 点】高い収量と良好な雑草管理のための目標苗立ち数は100~120本/m²
苗立ち率70%のとき苗立ち数100~120本/m²を確保するために必要な播種量は乾籾で4.5kg/10aです。

【除草剤と水管理の日にちの目安】

＜湛水播種＞

7日 1~2週間

点播機や条播機での播種時は、走行位置(マ-カー)を確認するため、一時的に水位を下げます。播種同時でプレキープ1キロ粒剤またはフロアブル・オサキニ1キロ粒剤を散布し、ゆっくりと入水し7日以上水位を保ちます。

無人ヘリや動力散布機で播種する場合は、播種時に3~5cmの水深を保つことが必要です。種子が圃場に落下する際に土中に埋もれてしまうと苗立ち不良につながります。播種深度ができるだけ0.5cmより深くないようにしましょう。

カラスによる食害は、特定の圃場に集中しておこる場合があります。見えにくいテグスを張るなども効果がある場合もありますが、毎年被害の多い圃場は湛水直播には不向きと考えられます。